

# 釧路湿原川レンジャー News

2013 Vol.3

## 第2回「釧路湿原川レンジャー学習会」が開催されました

平成25年8月1日(木)に、11名が参加して「第2回釧路湿原川レンジャー学習会」を開催しました。今回は、しべちゃ水辺の楽校での「釧路川の水質・水生生物調査」と鶴居村幌呂での「幌呂地区湿原再生現場見学」及び「オオアワダチソウの刈り取り」を行いました。

### 水質・水生生物調査について

北海道開発局では、毎年、北海道の主な河川で地域住民の方々と一緒に川の水質状況を調査しており、平成17年から釧路湿原川レンジャーが参加しています。この調査は、川の水質を参加者に直接確認して頂き、川に対する関心を高めて頂くことを目的としています。なお、今年は標茶町立標茶小学校の児童3名と協働で調査を行いました。



位置図

### しべちゃ水辺の楽校にて調査

作業は、小学生も含めた参加者がライフジャケットを着用して4班に分かれて行いました。調査は、水温・川底の感触・流速・透視度などの「川の状態観察」、簡易水質試験用具を使った「簡易水質調査」、川底の石やトラップ（設置した上流で川底を足でかき混ぜ、白い布に捕獲）に付着した生物を採取する「川の水生生物調査」、事前に北海道から許可を得て採捕した「魚類の観察」などを行いました。



流速調査

### ●調査結果

調査終了後に行った、各班からの結果報告を表-1、表-2にまとめました。今回の結果をA~Dの4段階で評価すると『人と河川の豊かなふれあいの確保』の項目で、透視度と糞便性大腸菌数<sup>※1)</sup>がBランクとなり、遊びやすさの観点としてBランクとなりました。また、『豊かな生態系の確保』の項目ではDO（溶存酸素量）、NH<sub>4</sub>-N（アンモニア性窒素）、水生生物調査結果がすべてAランクとなり、生き物の住みやすさの観点でAランクとなりました。



透視度調査

※1) 糞便性大腸菌群・・・一般に45℃付近の高温条件で増殖できる大腸菌群のことで、大腸菌群に比べると糞便汚染による指標性ははるかに高い指標細菌とみなされています。



水質調査

なお、参加者からは次のような感想がありました。

- 毎年参加しているので今年はどのように変化しているか、楽しみです。
- 今回の水質調査は小学生の協働参画もあって、今迄とは違った新鮮味があり、有意義な調査でした。

採捕したヤマメ



水生生物調査



採取した水生生物



班ごとに結果発表



調査後の記念撮影

表-1 人と河川の豊かなふれあいの確保(遊びやすさ)の調査結果

ランク	ゴミの量	透視度 (cm)	川底の感触	水におい	糞便性大腸菌群数 (個/100mL)
A	川の中や水際にゴミは見あたらないまたは、ゴミはあるが全く気にならない	100以上	快適である(素足で入りたいと感じる)	不快でない	100以下
B	川の中や水際にゴミは目につくが、我慢できる	70以上	不快感がない(履物があれば入りたいと感じる)		1000以下
C	川の中や水際にゴミがあって不快である	30以上	不快である(履物をはいても入りたくない)	水に鼻を近づけると不快な臭いを感じる	1000を超えるもの
D	川の中や水際にゴミがあってとても不快である	30未満		水に鼻を近づけるととても不快な臭いを感じる	

表-2 豊かな生態系の確保(生き物の住みやすさ)の調査結果

ランク	説明	DO (mg/L)	NH <sub>4</sub> -N (mg/L)	水生生物の生息
A	生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好	7以上	0.2以下	I. きれいな水・ヒラタカゲロウ・カワゲラ 等
B	生物の生息・生育・繁殖環境として良好	5以上7未満	0.5以下	II. ややきれいな水・コガタシマトビケラ・オオシマトビケラ 等
C	生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好とは言えない	3以上5未満	2.0以下	III. きたない水・ミズムシ・タニシ 等
D	生物が生息・生育・繁殖しにくい	3未満	2.0を超えるもの	IV. とてもきたない水・ユスリカ・チョウバエ 等

## 幌呂地区湿原再生について

午後からは、鶴居村の幌呂地区湿原再生現場に移動し、現場見学と要注意外来生物であるオオアワダチソウの刈り取りを行いました。幌呂地区湿原再生現場には、今年2月に行われた第4回学習会で工事中に訪れており、今回は工事完了後の状態を見学しました。

幌呂地区では農地開発などにより農業生産の向上が図られる一方で、湿原の面積は減少しました。そこで、湿原を回復するため、現在は河川区域となっている旧農地を湿原に再生する取り組みを行っています。

### ①未利用排水路の埋め戻し

現在は利用されていない排水路を埋め戻して、表流水・地下水の排水路への流出防止により、排水路周辺の地下水位を回復させます。これによって、下記の効果が期待されます。

- 未利用排水路周辺の地下水位の上昇
- 地下水位変動幅の低減
- 湿原植生の回復



説明を聞く参加者

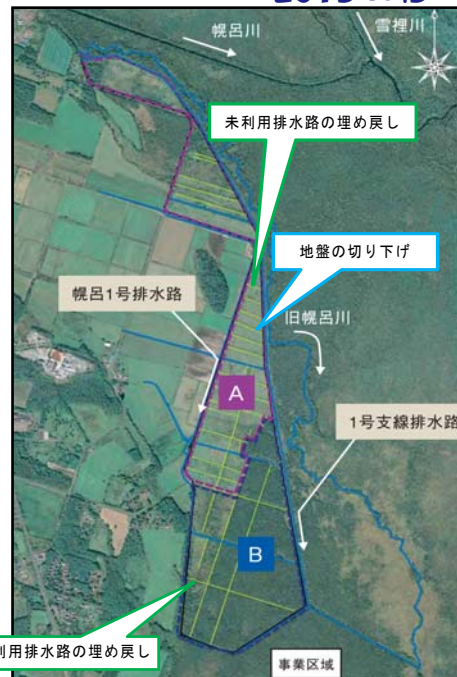


図-1 幌呂地区湿原再生事業区域

### ②地盤の切り下げ

地盤の切り下げにより、湿性植生の回復を図ります。切り下げる深さは、H21年から行った植生回復試験<sup>※2)</sup>の結果を踏まえて、地面と地下水位との距離が10cmになるように地盤を切り下げます。これによって、地表面が湿潤した状態が保たれることで、そのような環境に適した湿性植物の回復が期待されます。

※2) 植生回復試験・・・地面と地下水位の距離を0～20cmの3段階に変え、自然に生えてくる植物の種類を調べています。3年目の調査結果（H24年8月）では、区画①及び区画②で、全確認種のうち半数以上がスゲ類やイグサなどの湿性植物で占められています。また、区画③には湿性植物の他にクサヨシやオオアワダチソウ等の外来種が見られました。

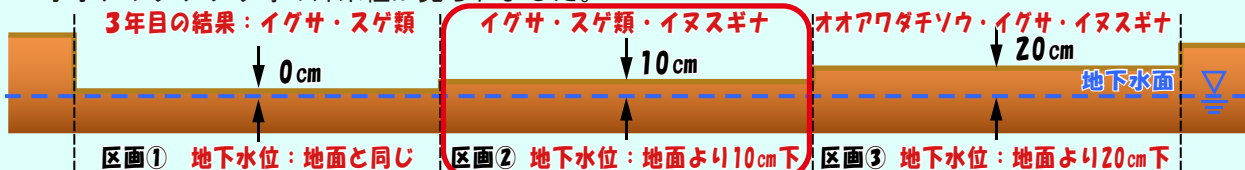
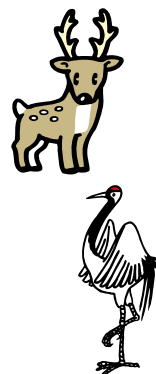


図-2 植生回復試験概要図

採用された切り下げ深



### ●オオアワダチソウの刈り取り

最後に要注意外来生物<sup>※3)</sup>に指定されているオオアワダチソウの刈り取りを行いました。駆除には幾つかの方法がありますが、今回は再生工事を行った場所の周りに生えているオオアワダチソウが花を咲かせる前に刈り取って種の拡散を防ぐことにしました。

※3) 要注意外来生物・・・「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律H16環境省、農林水産省」において、生態系に悪影響を及ぼしうる種として「要注意外来生物」に指定されている種です。規制はかからないが、取扱いに注意が必要です。なお、本法律において飼育、栽培、保管及び運搬等が規制されている種は「特定外来生物」と呼ばれています。



刈り取り作業



刈り取ったオオアワダチソウ

## 観察活動の報告

釧路湿原川レンジャーの皆さんから寄せられた観察報告を紹介します。

- ①釧路川方向から左岸堤防へ向かって顕著な獣道が見受けられた。
- ②昭和樋門の水路に土砂が溜まり草が茂っていた。



今後も皆さんからの報告をお待ちしております。

### 観察活動で報告された内容とその対応（8月～9月分）

報告日	報告内容	対応
H25.8.5	特定外来生物オオアワダチソウの栽培	環境省へ連絡
H25.8.5	特定外来生物オオアワダチソウの自生	環境省へ連絡
H25.8.22	植物報告：花・樹洞箇所の生育など	貴重な環境情報として取り扱う
H25.8.22	動物報告：キタキツネ・獣道など	貴重な環境情報として取り扱う
H25.8.22	岩保水門でのアオコ発生	貴重な環境情報として取り扱う
H25.9.2	昭和樋門水路での草の繁茂	釧路河川事務所にて土砂ごと撤去予定



①獣道(8/22梅本氏より)



②樋門水路(9/2紀国民氏より)